

ともしび



新年あけましておめでと〜うございます。

みなさんは、もうお餅は食べましたか？お寺にとつてお餅は、大切なお飾りとして、いろんな場所にお供えします。玄関や本堂はもちろん、お手洗いやお風呂にお祀りする仏さま方にも供えるのです。

鏡餅をお供えするときは、丸い餅を重ねます。これは「円満に年を重ねられるように」という意味があるそうです。また、満月の丸さや円そのものは、仏教のさとりを表現する時に使われます。それに、まるい人と言え、性格の穏やかな人を想像しますよね。丸いものには、いろんな意味があるようです。

お餅は、地方によつて食べ方も味付けも様々です。今年は、そんなお餅に負けないくらい「様ざま」に活躍できるように、お餅を見習いたいと思います。

〈本多 清寛〉
ほんだ しょうかん

修証義しゆしようぎをよむ

第三章 受戒じゆかいにゆうい入位にゆういより

「ぶつでし仏弟子ぶつでしとなること

必ずかなら三歸さんきに依よる」

Q、修証義って何？
A、曹洞宗の教えをより多くの人に伝えるために明治時代につくられたお経です。



今月は修証義、第三章より「ぶつでし仏弟子ぶつでしとなること必ず三歸さんきに依よる」という箇所をもとにお話をします。

出家をして僧侶となった私は、もちろん仏教徒です。そして、僧侶とはならなくても、仏さまの教えを心のより所として生きていこうとする人は皆、仏教徒であるとも言えます。「ぶつでし仏弟子ぶつでしとなる」とは、仏教徒が「善行」を行うための「しんけい訓戒しんけい」を受けます。

その最初の「しんけい訓戒しんけい」が「さんき三歸さんき」であり、「さんき三歸さんき」＝「さんぼう三宝さんぼうに歸依きえすること」とは、善行を行うことの決意であり、実践だといえます。

「さんぼう三宝さんぼう」とは、仏教の根本となるぶつ仏ぶつ・ほう法ほう・そう僧そうの三つのことを指しています。仏とは、尊い教えを説かれた仏さまのこと。法とは、仏教徒を導く教えのこと。僧とは、僧侶だけでなく、共に修行する仲間やその集団のことです。そして「きえ歸依きえ」とは、心のより所として大切にすること、教えに従って善行を行うことです。修証義には、ぶつ仏ぶつ・ほう法ほう・そう僧そうに歸依きえをする具体的なやり方が示されています。

仏教では、人間の行いを「身・口・意」の三つに分けて考えます。身体による行為を「身」、言葉による行為を「口」、心で思ったり、念じたりする行為を「意」といいます。

「身」による帰依は、「手を合わせ合掌して頭を下げること」。

「口」による帰依は、「南無帰依仏・南無帰依法・南無帰依僧」と、お唱えをすること。

「意」による帰依は、正しく生きようと「仏さまを信頼する謙虚な気持ち」を持つことです。

多くの人は、仏さまを念じて謙虚な気持ちで手を合わせ、頭を下げてお参りをしたことがあるかと思えます。このような「三宝に帰依する」実践を行うことによって仏さまとその教えとの「繋がり」を持つことになるのです。

繋がりができるといふことは、とても重要なことです。仏さまとその教えとに繋がりのある自分自身を思えば、毎日のささいな行動が変わってくるはず

です。

例えば身近な人や、様々なものごとに接するとき、なるべく人に嫌な思いをさせないように、少しでも皆が喜ぶように、という気持ちが湧いてきます。そのような行いはまさに善行といえるでしょう。

善行を重ねると、あなたの周りの人の心が穏やかになります。そして今度は周りの人が、様々な場面でああなたの心を安らかにしてくれます。

このように、仏さまとその教えとの繋がりができてくると、日常生活での行いが善いものに定まってきます。自分にも他人にも善いことをし、善い影響を与えられることができるようになります。帰依が安心をつくり、その安心が善い行いを続ける力となってさらに安心を与えてくれます。

仏教徒にとって、三宝に帰依することとは、自らの身体と言葉と心によって、仏・法・僧との繋がりを保つことであり、それが善行を行って生きていく力の源になるのです。

私の

ふるさと



第十七回 光のしずくプロジェクト



光り輝くイルミネーション

今回ご紹介する「光のしずくプロジェクト」は、毎年十二月の上旬から一月の下旬にかけて福島市の中心部で行われているイベントです。始まった当初は地域の活性化を願って行われていましたが、今では震災後の福島の復興を願い、訪れた多くの方々に笑顔や希望を与えています。

このイベントは福島市の中心街にある商店などが中心となって行われ、今年で七回目となります。街を彩るイルミネーションもさることながら、商店街の中に立ち並ぶ街路樹に目を向けると、透明なしずく型の板が飾られていることに気が付きます。其の一枚一枚に短いメッセージと共に、様々な願いが込められているのです。

本物のしずくのようにキラキラと光り輝く光景は、それだけで私たちの心に希望を与えてくれます。一つでも多くの願いが叶うよう、心よりお祈りいたします。

〈中野 孝海〉
なかの こうかい

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2014(平成26)年 1月1日発行 第381号